

マスメディアに情報を提供する

Releasing to the Press

背景と論点

新聞、ラジオ、テレビなどのマスメディアは社会に対して絶大な影響力をもっています。一般の人々にとって学術上の発見や問題は、新聞、テレビなどのマスメディアに登場したときに初めて「事実」になると言ってもよいくらいです。そして、人々の学術研究に対する態度やイメージにも大きな影響を与えるでしょう。マスメディアは、社会と大学教員をつなぐ貴重な媒体なのです。

マスメディアとのつきあいを始めるための第一歩は、大学教員自身が踏み出すことです。あなたが特定のジャーナリストと知り合いでなければ、プレスリリース（報道発表）を行いましょ。ジャーナリストは時間に追われているので、最低限の加工で要点をまとめられるようなプレスリリース資料、つまり、ニュース形式に近い文書を用意する必要があります。

実践の手法

1. まずはジャーナリストと学者の「ずれ」を理解する

- ・ ジャーナリストは学術に解答と確実性を求めがちである
(学者は、学術知識が蓋然的な仮説の集まりであり、成果を上げるには時間がかかり、社会が抱える問題への即座の解答は学術の能力を超えると考えている)
- ・ ジャーナリストは画期的な発見をした学者を一人の英雄として描きたがる
(学者は学問を協同的で累積的な営みであると考えている)
- ・ ジャーナリストはコミットメントを求める
(学者は中立的な立場に身を置きたがる)
- ・ ジャーナリストは論争を求める
(学者はコンセンサスを求める)
- ・ ジャーナリストは印象的な短い言い回しのもつ力を重要視する
(学者は重要なことを言おうとすると微妙かつ回りくどい表現にならざるをえないと思っている)
- ・ ジャーナリストは常に締め切りを意識して急いでいる
(学者は研究のもつ速度に依存している)
- ・ ジャーナリストは販売部数や視聴率によって評価される
(学者は他の学者から評価される)

2. ニュース性を見極める

- ・ 社会の多くの人々にとって身近な問題に感じられる話題ですか？
* 「〇〇がつくった仮説がようやく実証された」という表現を「□□に含まれる△△という物質が人体に有害である」に替えるとといった工夫も検討の価値があります。
- ・ 最近の出来事に関連がありますか？
例) 異常気象、特定の種の大量発生、疫病の蔓延、科学を扱う映画や小説、etc.
- ・ あなたの科学の話をおもしろいと聞いてくれる人が周りにいますか？

3. プレスリリース資料を作成する

- ・自分のニュースが重要であることを印象づける
- ・最初の一文で注目を引くような工夫をする
- ・最も重要な点を、最初の段落に含める
- ・最も重要な点、研究の目的、結果、インプリケーション、その他の必要な情報の順に記載する
- ・A4用紙で1ないし2枚、文章は30行以内に収める
- ・早読みできるよう、パラグラフ、見出し、キーワードを付ける
- ・内容の理解を助けるような図や写真を配置する
- ・文章は具体的で明確で、飛躍のないようにする
- ・一番上に、記事差し止め期日（それ以前にはニュースを発表することができない日）を書く
- ・一番下に、住所、電話番号、電子メールなどの連絡先を書く

4. 取材に備える

- ・研究に関する詳細な記述、論拠、例、キャプションつき写真、映像などをセットにした資料を準備する
 - *ジャーナリストの仕事を楽しなものにするだけでなく、あなたの学術的知見を社会に正確に伝えることにも役立ちます。
- ・いくつかの選択肢を提案できるようにする
 - 例) 実験装置の見学、共同研究者の紹介、etc.
- ・ジャーナリストには時間がないこと、研究内容をあまり知らないことを前提にする
- ・自分の伝えたい2ないし3の主なポイントを特定する
- ・自分の研究の新しい点はどこにあり、人々にどんな影響があるかを明確にする
- ・「物語」が提供できるか検討する
- ・多くの人々が理解しやすいような言葉で話せるようにする
- ・難解な内容については、理解しやすいような喩えを用意しておく

5. 事後について

- ・必ず記事になるというものではないので、過大な期待をせずに待つ
- ・報道がなされたら（たとえ最終的な内容に不満が残ったとしても）担当したジャーナリストに感謝する
 - *ページの割り振りや表題などはジャーナリストではなく編集者が担当している場合が多いなど、相手の状況を察してあげることも大切です。
- ・担当したジャーナリストを、学術の発展、展開における協力者と位置づけ、今後も協力関係を継続させるよう努める

参考資料：名古屋大学高等教育研究センター（2008）『研究者のための科学コミュニケーション Starter's Kit』

作成者：齋藤芳子（名古屋大学高等教育研究センター）

作成日：2011年3月10日

URL：<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/guide/>